

私が成し遂げたい目標

熊本県立熊本聾学校

高等部普通科三年 吉村 章

私の目標は、聴覚障がい者達が活躍できる場を創ることです。この目標を叶えたい理由は、私達聴覚障がい者と健常者の架け橋になりたいからです。今、この世界には、手話や聴覚障がいについてあまり知らない人と理解をしてくれている人がいます。私は、あまり知らない人に聴覚障がい者の現状を伝えることで、理解してくれる人を増やしていきたいと思っています。

しかし、それは簡単なことではありません。「耳が聞こえないから無理でしょ」という人がいます。聴覚障がい者でも音楽が好きな人もいますし、聞こえにくくてもスポーツを楽しむことができることを伝えていきたいです。そして今、聴覚障がい者にとって困難なことを、少しずつ私達が、出来ることに変えていきたいと思っています。そんな環境を創り上げて、もっと私達聴覚障がい者が活躍できる世の中にしたいと思っています。前例がないと断られることが多くあります。難しいことでも前例をたくさん作って、後の人達はその道を通りやすいようにしたいと思っています。

二年前、広島県では聴覚障がい者団体として全国初の災害ボランティア活動を始めました。その行動は、私達聴覚障がい者にとって大変喜ばしい一歩になりました。私も同じように人のためになる活動をしてみたいと思いました。

それから一年後の昨年、私は手話通訳士と一緒に、一般のボランティア活動に参加し、アメリカに行ってきました。さまざまな人達が集まっていて、その中に聴覚障がい者は私一人だけでした。グループ行動するとき、私の聴覚障がいのことを説明して、作業の連携をしやすいように、様々な配慮や工夫をお願いしました。ジェスチャーだったり、話すときには口が見えやすいように見えやすい位置に立ってもらったり、私を呼ぶときは肩をたたいてもらったりなどです。私と出会う前は、聴覚障がいのことをあまり知らない人でした。そのことを伝えると理解してくれて、いろいろ手伝ってくれました。聴覚障がいのことを伝えるだけで人は変わるんだと感じました。

驚いたことが一つありました。それは、健常者が集まる活動の中に、ASL（アメリカ手話）を使える職員がいたことです。私は自己紹介やあいさつくらいしか覚えていませんでしたが、外国の人とジェスチャーでコミュニケーションを取ったのは、とても驚きの体験でした。ASLと声を一切使わずに、ジェスチャーだけで通じ合えたことがとても嬉しく、また、私のコミュニケーションモードに歩み寄ってくれて一生懸命に話してくれたことにとても感動しました。このような心が繋がるやりとりを日本でももっとできないかと感じ、初めてやりたいことが見つかりました。

聞こえにくいから、うまく喋ることが出来ないからなど、様々な場面で諦めた経験が私にもありました。聞こえにくいから、上手に喋れないからと言って、チャレンジする前に諦めてしまえば何一つとして自信につながりません。自信をもって障がいという壁を乗り越えていきたいと思います。世の中にはその壁を越えて来ている人達があります。これまでの私は壁の向こう側に何が待っているのか分からず、踏み出せずにいました。しかし、いつか私が壁を越えるとき、「手話」は誰でも使えるコミュニケーションの一つだと伝えて、障がい者と健常者をつなぐ架け橋になりたいと思っています。そして、聴覚障がいを誇りに活躍できる場をつくりたいです。